

新型コロナ抗体保有率、東京都で 31.8%に、第 8 波前

沖縄 46.6%、長野 9.0%、都道府県で大きな差

2022 年 12 月 4 日（日）配信小川洋輔(m3.com 編集部)

[厚生労働省](#)が 11 月 6～13 日に実施した[新型コロナウイルス](#)の抗体調査の速報値がまとめ、都道府県によって抗体保有率が大きく異なる実態が浮き彫りとなった。最高の沖縄県で 46.6%、大阪府で 40.7%に上る一方、最低の長野県では 9.0%にとどまった。北海道や東北、北陸で低い傾向にある。専門家の間では第 8 波の[感染拡大](#)に地域差があるのは、第 7 波までの[感染者数](#)の影響があるとの見方が出ている。東京都は 31.8%と、調査属性は異なるが 2022 年 2～3 月の調査での 5.65%から大幅に上昇していた。

厚労省は日本赤十字社の協力を得て、11 月 6～13 日に献血に訪れた 8260 人を対象に、自然感染によって得られる抗 N 抗体の保有率を調べた。献血の対象年齢は 16～69 歳。11 月 30 日のアドバイザリーボードで、年齢や性別を補正していない速報値を報告した。

その結果、全体の保有率は 26.5%だった。都道府県別では沖縄県が最も高く、大阪府、鹿児島県、京都府、熊本県と続いた。最も低いのは長野県で、徳島県、愛媛県、新潟県、岐阜県と続いた。

都道府県名	抗体保有率 (95%CI)	都道府県名	抗体保有率 (95%CI)
北海道	22.4% (16.3-29.4%)	滋賀県	25.8% (19.7-32.6%)
青森県	21.4% (15.2-28.8%)	京都府	34.9% (28.5-41.7%)
岩手県	16.5% (10.1-24.8%)	大阪府	40.7% (34.7-46.9%)
宮城県	20.3% (13.9-28.0%)	兵庫県	30.0% (24.0-36.7%)
秋田県	18.7% (12.2-26.7%)	奈良県	30.0% (23.7-36.9%)
山形県	19.5% (12.6-28.0%)	和歌山県	25.0% (18.7-32.2%)
福島県	20.8% (14.0-29.2%)	鳥取県	21.2% (14.7-29.0%)
茨城県	23.5% (17.1-31.1%)	島根県	18.5% (12.6-25.8%)
栃木県	25.5% (18.6-33.6%)	岡山県	28.6% (21.9-36.0%)
群馬県	20.4% (14.2-27.8%)	広島県	17.1% (11.9-23.6%)
埼玉県	28.6% (22.4-35.6%)	山口県	23.3% (16.7-31.0%)
千葉県	26.7% (20.4-33.8%)	徳島県	13.1% (8.2-19.5%)
東京都	31.8% (26.1-37.9%)	香川県	30.9% (24.1-38.3%)
神奈川県	31.6% (25.1-38.7%)	愛媛県	14.4% (9.1-21.1%)
新潟県	15.0% (9.3-22.4%)	高知県	30.8% (23.9-38.3%)
富山県	19.9% (13.7-27.3%)	福岡県	29.2% (23.5-35.4%)
石川県	22.2% (16.1-29.2%)	佐賀県	28.3% (22.4-34.6%)
福井県	24.4% (18.2-31.5%)	長崎県	31.9% (25.4-39.1%)
山梨県	26.7% (19.7-34.7%)	熊本県	32.9% (26.7-39.5%)
長野県	9.0% (4.6-15.6%)	大分県	24.9% (18.8-31.7%)
岐阜県	15.5% (10.5-21.8%)	宮崎県	31.3% (25.0-38.0%)
静岡県	24.4% (17.9-31.8%)	鹿児島県	35.2% (28.8-42.0%)
愛知県	27.5% (21.6-34.2%)	沖縄県	46.6% (41.2-52.1%)
三重県	21.6% (15.6-28.6%)		

年齢別に見ると、16～19歳で38.0%、20～29歳で35.7%、30～39歳で33.6%と若年層で高く、60～69歳は16.5%にとどまった。

性別による差はほとんどなかった。

国立感染症研究所感染症疫学センター長の鈴木基氏は「全体で 26.5%という値は、米国や英国と比較して相当に低いという評価になる。地域差が大きいですが、おおむねこれまでの流行状況を反映しているものと考えている。抗N抗体陽性率が低い地域では、高い地域に比べると相対的に直近で流行の拡大が見られている」と分析してい

厚労省は 2022 年 2～3 月に、20 歳以上の住民の無作為抽出による抗N抗体保有調査も行っているが、この際は東京都で 5.65%、大阪府で 5.32%にとどまっていた。今夏の第 7 波を経て、日本国内の抗体保有率が大幅に上昇したと見られる。